

社団法人中央調査社設立趣意書

昭和29年8月1日

今日、国際世界のなかにあるわが国の政治、経済、文化等各部門にわたる適正効率化を図るために調査が必須重要なことについては多く知られるにいたっています。近代社会機構はいよいよ複雑微妙となり、政治についても、経済についても積極性をもった調査活動によらなくては一步も踏み出しえないまで来っていると考えるものであります。

すなわち、それは民主政治の原則により国も積極的に国民の希うところをとらえ、これに応じた有効適切な政策を行うことよりほかないということであります。また経済においては今日、生産と消費の交換の場としての市場を支配しているものは、もはや単なる自由経済の法則のみではなく購買者の心理等までも問題点となっており、これが解明は在来の経済学や経営学のみでは不可能であり、新しい方法を必要とするのであります。また経営の合理化、貿易の振興等すべて新しい方法によらなくては、その場をえず、歩み得ないとも考えるものであります。調査は、いうまでもなく客観的な公正不偏な立場と、きびしい科学的方法によってのみ成しえるものであります。このときにあたり、たまたま国立世論調査所の機構改革により、ここに旧国立世論調査所の調査機構と、時事通信社の調査網を中核とし、民間各界の参加協力のもとに、名実ともに確固公正なる民間の新調査機関を設立し、より完全な、そして自由活発な調査活動の一新へと展開を図らんとするものであります。

識者各位の御賛同とご支援とを切望いたす次第であります。

発起人（五十音順敬称略）

人間野武雄	佐々部晚穂	藤本幸太郎
植村甲午郎	杉道助	藤山愛一郎
潮田江次	高野善一郎	古垣鉄郎
尾高朝雄	徳川宗敬	古野伊之助
小田嶋定吉	戸田貞三	堀越禎三
小保内虎夫	長崎惣之助	松方三郎
梶井剛	沼佐隆次	松下幸之助
上村藤吉	長谷川才次	吉田秀雄
小山栄三	久武猛彦	米山桂三
郡祐一	福岡誠一	与良エ

以上